

# 「Claude Sonnet 5」徹底解剖：自律型エージェントAI時代の幕開け

## 技術刷新と「コスト逆転」の罠



トークン消費量の30%増加（トークン・インフレ）：  
新型トークナイザーの採用により、同一テキストでも旧モデルより消費トークンが増大。



「適応型推論（Adaptive Thinking）」の  
デフォルト化：推論プロセスの制御がAI側に一  
任され、温度感などの手動調整はエラー対象に。



## 戦略的転換：アシスタントからエージェントへ

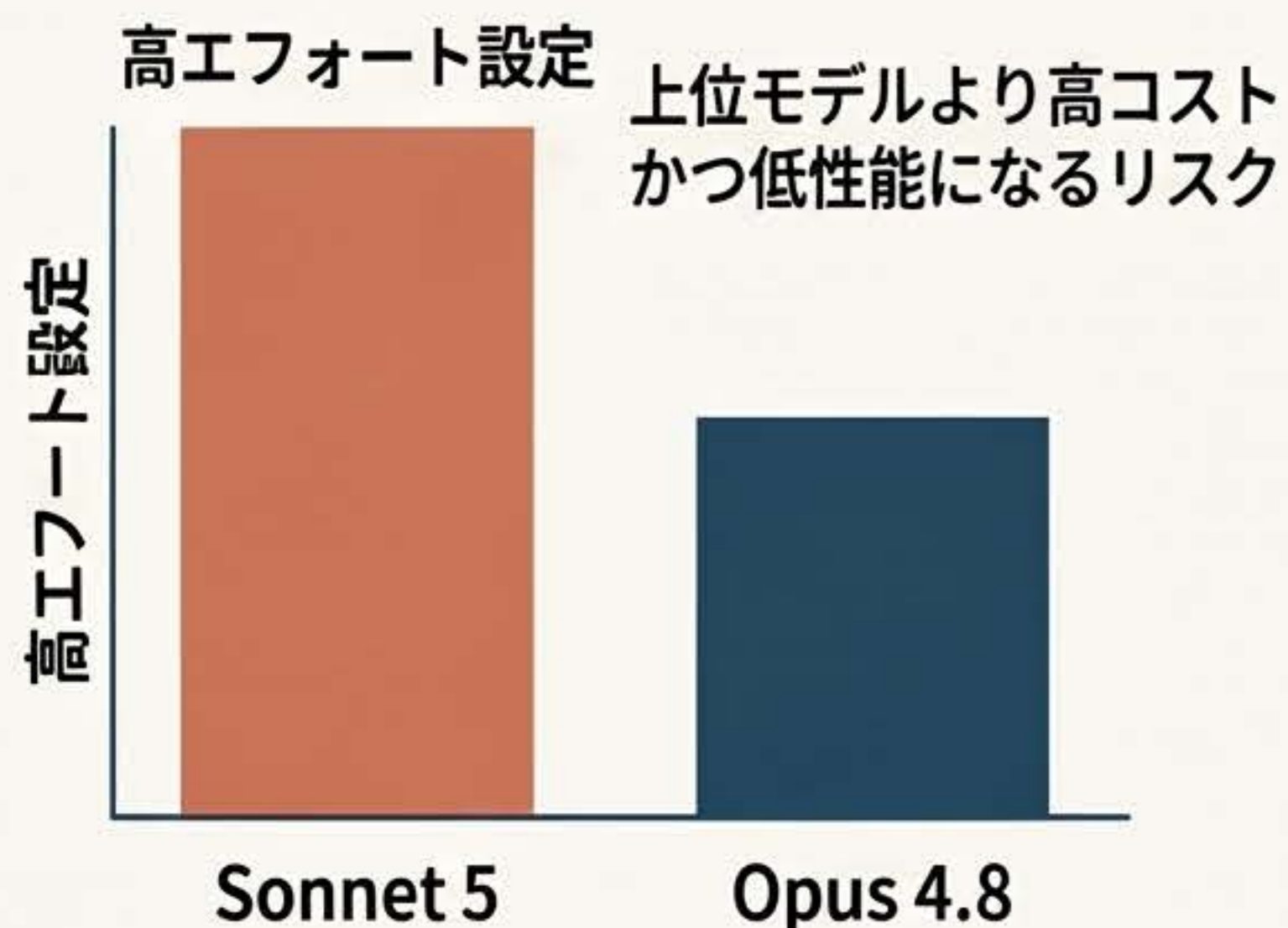


産業特化型「Claude Science」の展開：  
創薬やライフサイエンスに特化した、HPC  
連携・再現性重視の自律型ワークベンチ。



サイバー安全性を武器にした迅速な市場投入：  
攻撃能力を制限することで政府規制を回避し、  
フラッグシップに先んじて全面公開。

## 高負荷設定におけるコスト逆転現象



## 主要なコーディング・エージェント性能の比較

評価指標	Sonnet 4.6	Sonnet 5	Opus 4.8
SWE-bench Pro (開発能力)	-	63.2%	-
OSWorld (OS操作能力)	-	81.2%	-
CursorBench (複数ファイル)	49.0%	61.2%	63.8%



指示待ち  
人間はプロンプトの  
微調整ではなく



自律実行  
AIが生成した成果物のレビ  
ューに注力する仕組みへ。